

ないすい 狛江市内水ハザードマップ

内水ハザードマップとは

- 内水ハザードマップとは、大雨（想定しうる最大規模の降雨*）によって下水道などからあふれた水（内水）により氾濫した場合に想定される浸水の範囲と最大の深さを示し、防ぎ方、避難方法などの情報をまとめた地図です。
- 内水による氾濫とは、豪雨などの大雨の量が下水道管などの排水施設の能力を超えるときや、河川などの排水先の水位が高くなったときに、雨水を排水できなくなり、浸水することです。
- お住まいの地域の浸水状況は、想定を上回る大雨などの気象状況や土地の利用形態によって浸水や深さなどが変わる場合もあります。**大雨のときは気象情報や避難情報に注意してください。**
- この地図では、**河川の氾濫（外水氾濫）を考慮していません。**河川が氾濫したときに浸水が想定される区域を確認する場合は、**洪水ハザードマップを参照してください。**

*想定した雨量は、1時間最大雨量153mm、24時間総雨量690mmという、水防法の規定により定められた想定しうる最大規模の降雨です。

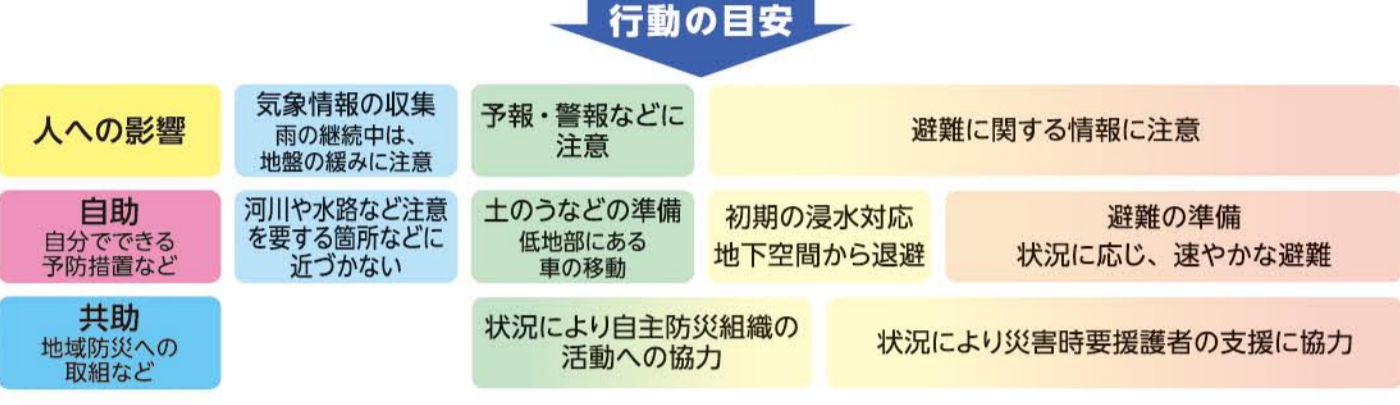
マップの使い方

- 1 ご自宅の周辺の想定される浸水状況を確認してください。
- 2 浸水想定区域以外の安全な避難先、安全に移動できる避難経路などを確認しておいてください。浸水の状況が変化する場合もあるので、複数の避難先や避難経路を考えておきましょう。
- 3 雨がさらに激しくなり、洪水（外水氾濫）のおそれがある場合は、市から避難情報が発表されます。周囲の状況を見て、適切な避難行動をとってください。

発行年月 令和3年6月
発行 狛江市
環境部下水道課 電話 03-3430-1111(代)

雨の強さと行動の目安

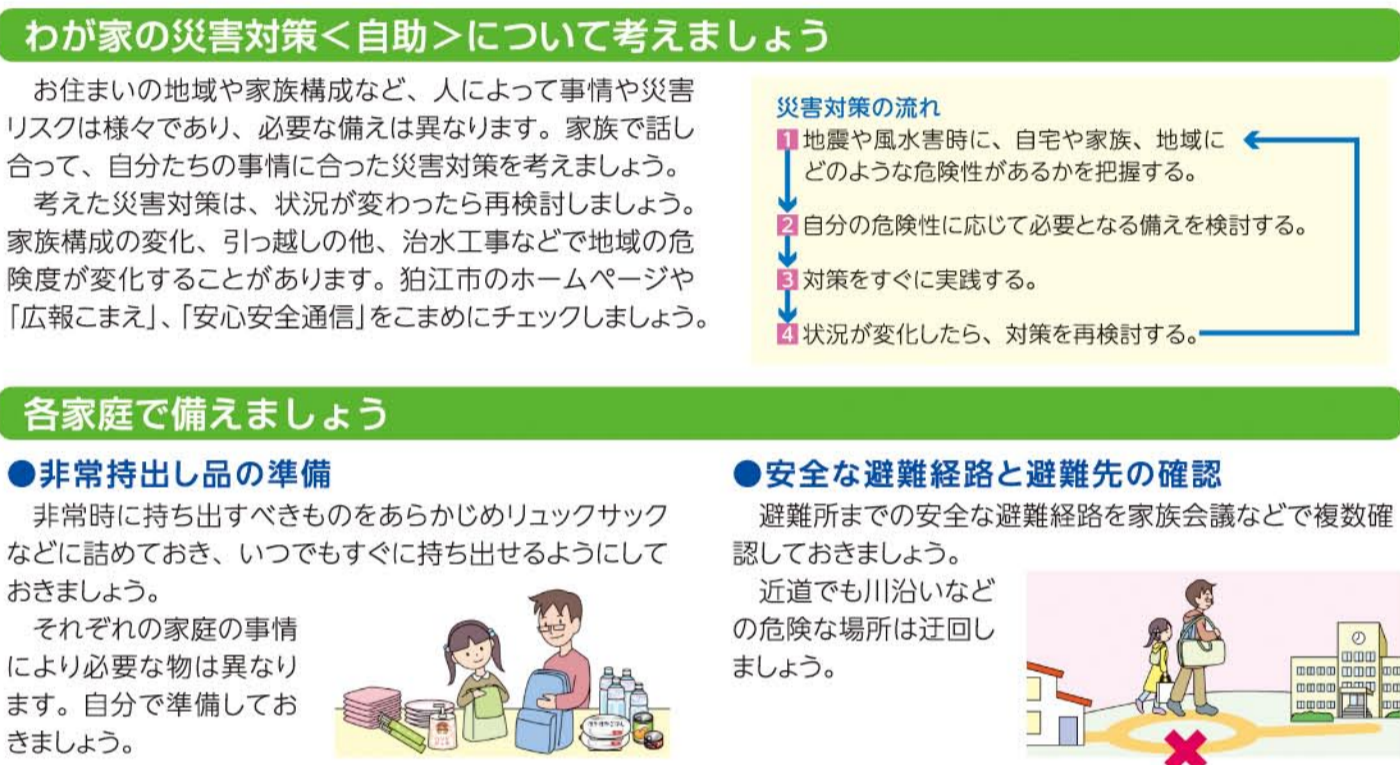
雨の強さと降り方の目安	予報用語 (1時間雨量)	人や強い雨 (10~20mm)	強い雨 (20~30mm)	激しい雨 (30~50mm)	非常に激しい雨 (50~80mm)	猛烈な雨 (80mm以上)
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	薄のように降る (ゴ-ゴと降り続く)	風が吹くような圧迫感がある急降を感じる	
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をささなくてもぬれる	傘は全く役に立たなくなる			
屋内 (木造住宅を想定)	雨の音で話し声が良く聞き取れない		寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる	道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる			
車に乗っていて	ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間水膜が生じブレーキが効かなくなる	車の運転は危険			



警戒レベル	避難情報	気象特別警報、警報、注意報	指定河川洪水予報	とるべき行動
警戒レベル5	緊急安全確保	警戒レベル5(相当) 大雨特別警報	警戒レベル5(相当) 氾濫発生情報(洪水警報)	命の危険直ちに安全確保!
警戒レベル4	避難指示	警戒レベル4(相当) 氾濫危険情報(洪水警報)	警戒レベル4(相当) 氾濫危険情報(洪水警報)	危険な場所から全員避難
警戒レベル3	高齢者等避難	警戒レベル3(相当) 大雨警報 洪水警報	警戒レベル3(相当) 氾濫警戒情報(洪水警報)	危険な場所から高齢者等は避難
警戒レベル2	—	大雨注意報 洪水注意報	氾濫注意情報(洪水注意報)	ハザードマップなどで、災害想定区域や避難先、避難経路を確認してください。
警戒レベル1	—	早期注意情報(警報級の可能性)	—	最新の防災・気象情報などを確認するなど、災害への心構えを高めてください。

* 警戒レベルや避難情報の名称は、法改正などにより変更になる場合があります。

日頃からの準備



各家庭で備えよう。非常持出し品の準備、安全な避難経路と避難先の確認などについて詳しく説明しています。

大雨に備えて

台風や集中豪雨などにより、浸水が急に起こることがあるため、気象情報に注意して、早めの対応心がけましょう。

自分の行動計画を立てよう

●マイ・タイムラインを作ろう
マイ・タイムラインは、いざという時に慌てることがないよう、避難に備えた行動を一人ひとりがあらかじめ決めておくものです。台風などは事前に予測できるので、風水害が発生する前に避難することができるので、一人ひとりで、家族で、地域で、それぞれのマイ・タイムラインを作っておきましょう。また、マイ・タイムラインの作成を通じて、しっかり準備を進めて、風水害から身を守りましょう。

●東京マイ・タイムラインを利用しよう
東京都防災ホームページの「東京マイ・タイムライン」に、マイ・タイムラインの作り方がわかりやすく紹介されています。タイムラインシートのダウンロードや、必要事項を入力すると自動で作成するツールも用意されています。冊子版は、安心安全課で配布しています。

- 家の周りの再点検
 - 庭木や支柱をたてたり、損を補強しましょう。
 - 家の周りにも強風などによって飛ばされる可能性があるものは、室内にしまいましょう。しまうことができない場合は、飛ばされないようにしっかりと固定しましょう。
 - 家の外に置いてあるものが強風で飛ばされ、近隣の家を損壊させたり、歩行者にケガをさせるおそれがあります。
 - マンションなどにお住まいの方は、ベランダや外廊下にある物を片付けましょう。
- 土のうや止水板などを準備
 - 自宅や事業所などで浸水が予想される場合は、土のうや止水板を準備しましょう。
 - 特に半地下建物や地下室のある家屋などは必ず浸水対策を行いましょう。
 - 狛江市では止水板設置工事費などの補助制度があります。詳しくはホームページをご覧ください。
- 床上浸水の対策
 - 家財や家電などは浸水の被害を受けないように、高所や安全な上階に移動させましょう。
 - 電気のコンセントは漏電、ショート、感電などが発生する可能性があります。家電製品などのコンセントは抜き、低い位置にあるものは高所へ移動させましょう。
- 側溝、雨水ますの掃除
 - 道路の側溝や雨水ますの詰まりは、道路冠水や浸水の原因となります。
 - 上にブロックなどを置かないでください。
 - 日頃からの清掃にご協力をお願いします。
- 大量の排水は控えよう
 - 大雨の時は下水道管が雨水でいっぱいになっているので、お風呂などの排水やシャワーを使うのは控えましょう。

わが家の防災メモ

避難する場所や連絡先などを書き出しておきましょう。携帯電話が使用できなくなっても安心です。また、メモ欄に持病や処方箋、アレルギーなどについて書いておくと、救急医療の際に役に立ちます。

水害の時に行く避難所

家族の集合場所

安全な場所にある親戚・知人宅など

家族の連絡先など

名前	電話	メール	血液型
名前	電話	メール	血液型
名前	電話	メール	血液型
名前	電話	メール	血液型
名前	電話	メール	血液型

緊急時連絡先（親戚・知人など）

名前	電話	メール
名前	電話	メール
名前	電話	メール
名前	電話	メール

メモ

災害時の連絡方法

操作の方法は裏面に記載しています。

地震、噴火などの災害の発生により、被災地への通信が増加し、電話がつながりにくい状況になった場合に提供開始される声の伝言板です。

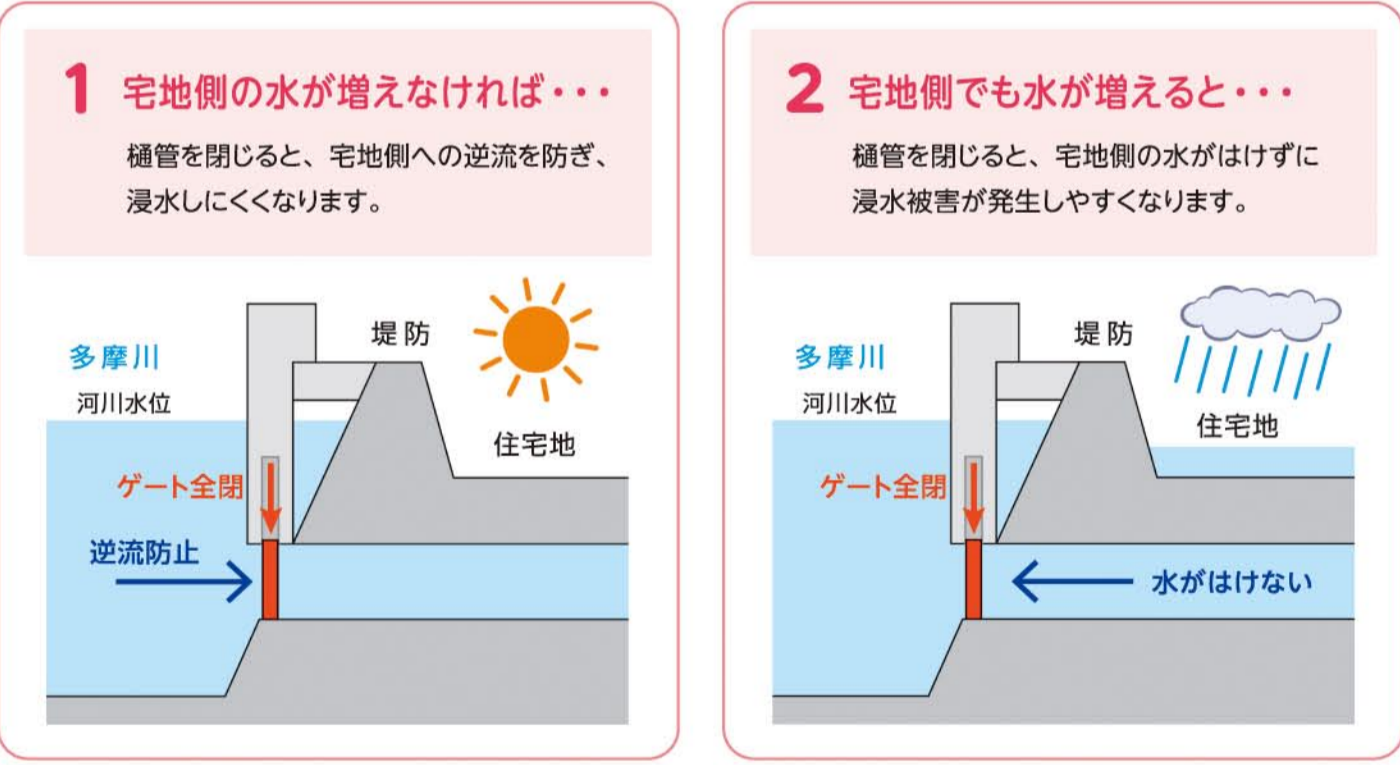
「171」災害用伝言ダイヤル
1伝言あたり30秒（最大20件）まで登録できます。詳しくは、NTT東日本 災害用伝言ダイヤル <https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/> 各通信事業者では同様のサービスを「災害用音声お届けサービス」として提供しています。詳しくは各通信事業者にお問合せください。

災害用伝言板
パソコンやスマートフォンなどから固定電話や携帯電話の電話番号を入力して安否情報（伝言）の登録、確認を行うことができます。

NTTドコモ https://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/disaster_board/index.html
KDDI (au) <https://www.au.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengon/>
ソフトバンク <https://www.softbank.jp/mobile/service/dengon/>
ワイモバイル <https://www.ymobile.jp/service/dengon/>
* 楽天モバイルはNTT東日本/西日本の災害用伝言板 (Web171) の利用を推奨しています。

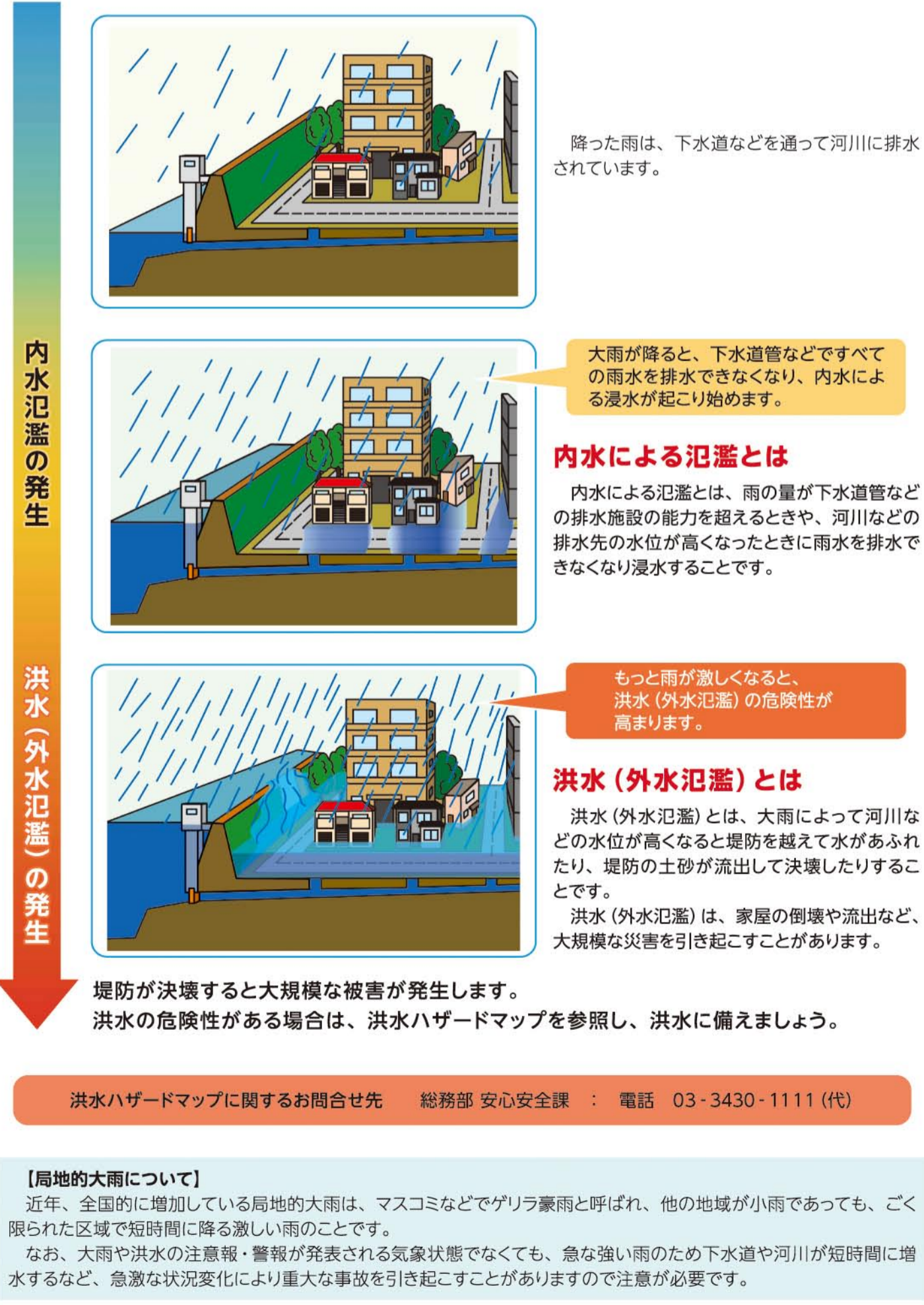
河川からの逆流や浸水を防ぐ施設

排水樋管
排水樋管は、下水道から河川に雨水を排水する箇所に設けられる施設です。狛江市では、猪方排水樋管と六郷排水樋管の2つがあります。排水樋管は、ゲートの操作により洪水時に河川からの逆流を防止します。ただし、大雨の時は宅地側でも水が増えるので注意が必要です。



土のうステーション
設置場所 供養塚児童公園（駒井町三丁目3番） 第一地区消防隊器具置場（中和泉四丁目16番） *土のうが少なくなったら、安心安全課（電話03-3430-1111(代)）までご連絡ください。 *使用後の土のうは戻さず、各自で処分してください。 *場所は狛江市内水ハザードマップを確認（裏面参照）

内水氾濫と洪水（外水氾濫）



地域の防災活動 <共助>

大規模な自然災害が発生すると、多くの人が救助や救護を必要とすることから救助隊員の人数が足りず、全てで現場に駆けつけるのは現実的に困難です。そのため、災害発生初期段階では、地域の人たちの助け合いが共助が大変重要になります。

- 狛江市消防団
消防団は、「自らのまちは自らで守る」という精神に基づき、地域住民で構成されたまちの安心・安全を守る組織です。団員は各々の仕事に就いていますが、市内で火災や水害などの災害が発生すれば、昼夜を問わず現場に駆けつけ、災害活動に従事しています。また、災害活動の他に、定期的に訓練や資機材点検を行うとともに、市民を対象とした救命講習の講師など、地域の防災リーダーとして活躍しています。

令和元年東日本台風での排水作業
 - 狛江市自主防災組織
災害に備えるといっても、何から始めたいのかわからないという方や、発生したときに本当に自分の家族だけで避難できるのか不安という方は多いのではないのでしょうか。そんなとき、アドバイス合ったり、助け合おうが地域の自主防災組織です。
 - 狛江市防災会
防災会は、日頃から地域での災害対策に関する活動を行うことで、災害時には地域の中心となって活動する団体です。市内全域に支部があり、支部ごとに防災訓練を行ったり、講習会を開催しています。地域で行っている防災活動に参加してみよう。近所の人と顔見知りになるだけでも、きっと災害時には大きな安心が得られるはずです。
 - 避難所運営協議会
避難所運営協議会は、災害時に避難所の開設、運営などを中心となって担っていく地域住民の団体です。避難所の運営は避難者自ら行います。平時には、避難所運営の際の役割決めや、避難所運営訓練を実施しています。小中学校など13箇所の指定避難所のうち、都立狛江高校を除く12箇所の避難所で、避難所運営協議会を設置しています。避難所での生活は、誰もが不安でいっぱい。そんな中、しっかりとした運営基盤があることで、混乱を少しでも抑えられます。いざという時のために、日頃から防災活動に取り組んでみましょう。
- 地域の防災は、日頃からの交流が大切です!**
自主防災組織に入るのに、特別な資格などは一切りません。地域を守る防災活動について興味のある方は、市役所までご連絡いただければ、説明や各役員との仲介などを行います。 総務部 安心安全課 : 電話 03-3430-1111(代)